

# 写真で見る新地町の復旧・復興状況

2018年 12月28日 更新

震災から7年9ヶ月・・・ 新地町の復興の様子を写真で紹介합니다。

新地駅周辺では、地域エネルギーセンターが完成、町民ホール、ホテル・温浴施設、複合貸店舗、多目的運動場建築が進んでいます。

沿岸部では既に完了した防潮堤・漁業施設の他、海釣り公園、防災緑地、道路の整備が進んでいます。



町のシンボルの山、標高430mの鹿狼山は子供からお年寄りまで登れる山として、年間を通して多くの登山者が訪れます。元旦は、日本一早い山開きと銘打って、3千人以上の登山者で賑わいます。紅葉の季節が終わる冬でも、多くの登山者が訪れます。



バスを連れてやって来た町外小学生の遠足登山

住まい再建、道路、河川の復旧がほぼ終わり、残る沿岸部の事業が急ピッチで進んでいます。



盛土が終わり施設整備が進む釣師防災緑地

津波により新地駅周辺も大きな被害をうけました。新しい鉄道は内陸側に移設され、高く盛土され造られた新しい街では住宅建築が進み、町が分譲した保留地は完売しました。駅東では、昨年診療所が開所し、LNGを駅周辺で活用する「地域エネルギーセンター」が完成しました。フットサル等に使用される多目的運動場も建築中で、青パパイヤ・アボガド等を栽培する植物工場も近く着工します。駅西では、町民ホール、温浴施設・ホテル、複合貸店舗棟を、来年の完成に向け建築中です。商業ゾーンも、消防署北側エリアに整備されます。



大規模な建築工事がすすむ新地駅前



しんちまち

# 新地町の名産・名所



	H26/4/1	H30/1/1
人口	7,936人	8,270人
世帯数	2,609世帯	2,832世帯
面積	46.69km <sup>2</sup>	

H26/04は震災後最少となった住基人口。他は県調査の毎月一日の推計人口。震災後の転入者は住民未登録者が多く、住基人口とは合わない。

H30/11/1人口は「**8,208人、2,853世帯**」: 県の例月人口推計調査より

福島県浜通り地方  
最北端のコンパクトな町



【カレイ】



【コウナゴ】



【ニラ】



【いちじく愛す】



【スイートマシェリ】



【鹿狼山  
年間来訪者4万人】



【清酒 鹿狼山】

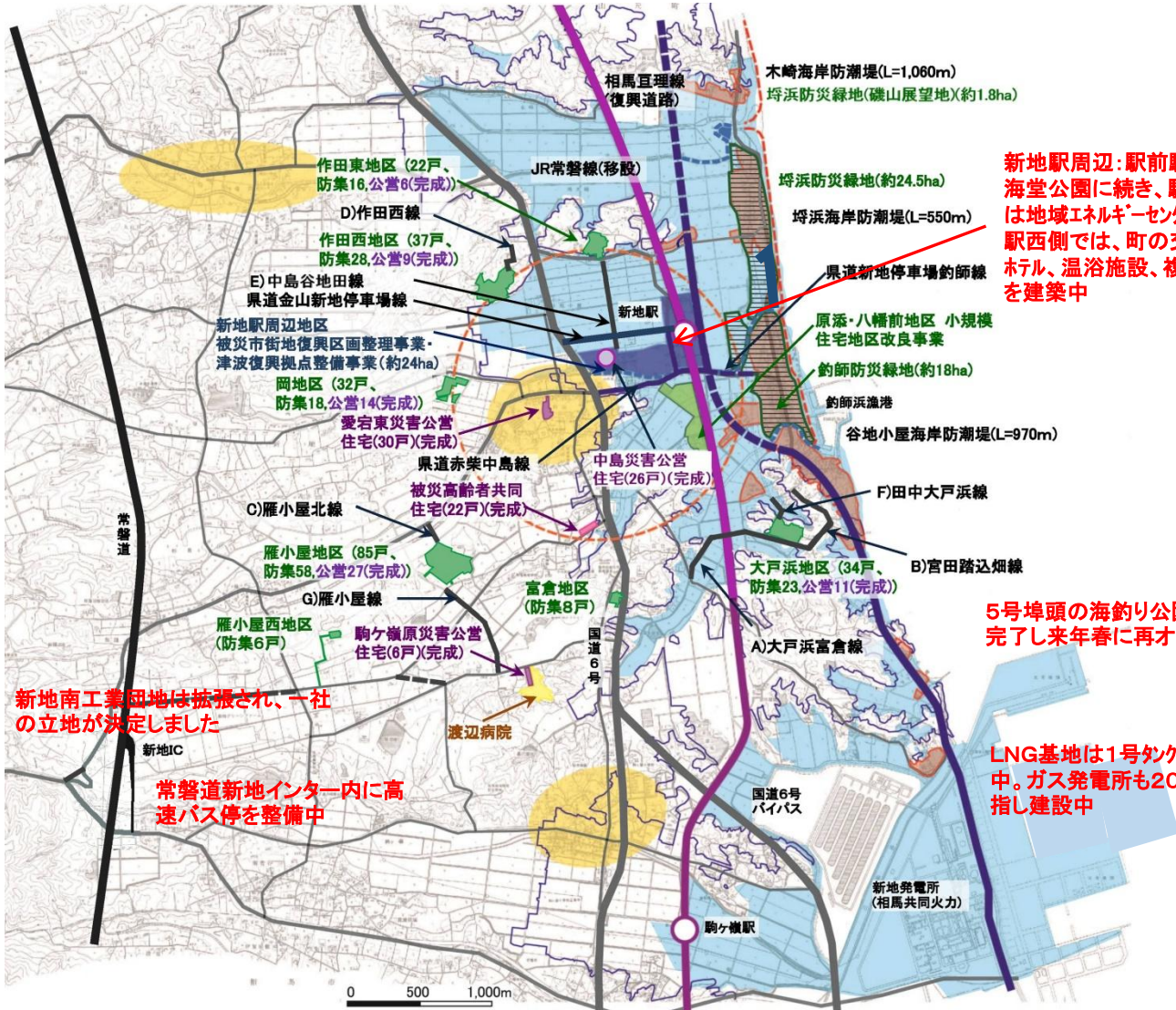


【花木山ガーデン】  
標高140m  
からの絶景

# 新地町 主な復興事業箇所図

浜通りの最北端の町

浸水面積 9.27km<sup>2</sup>



新地駅周辺: 駅前駐車場、観海堂公園に続き、駅の東には地域エネルギーセンターが完成。駅西側では、町の交流センター、ホル、温浴施設、複合貸店舗を建築中

5号埠頭の海釣り公園は復旧工事が完了し来年春に再オープンします

LNG基地は1号タンクが完成し2号を建設中。ガス発電所も2020年運転開始を目指し建設中

新地南工業団地は拡張され、一社の立地が決定しました  
常磐道新地インター内に高速バス停を整備中



- ① 防災集団移転促進事業 移転団地
  - ② 区画整理・津波復興拠点整備事業
  - ③ 公営住宅
  - ④ 被災高齢者共同住宅
  - ⑤ 小規模住宅地区改良事業
  - ⑥ 県道整備
  - ⑦ 町道整備
  - ⑧ JR常磐線移設
  - ⑨ 河川
  - ⑩ 防災緑地
  - ⑪ 海岸防潮堤
- 浸水区域
  - 標高10m
  - 既存の国県町道
  - 既存の中心的集落
  - 災害危険区域

# - 新地町の復旧・復興状況 -

## 安心・安全なまちづくり（町復興計画の5つの基本方針）

### 1. 沿岸北部復興イメージ

(沿岸部の断面図)

A-A'断面

⑤「10m以上」の高台に住宅を再建

②災害危険区域指定+被災地  
買取り+防災緑地整備

①防潮堤は以前より1m高く

安全な場所で  
JR常磐線再建  
10m以上の区域で  
住宅再建

二線堤の整備

丘陵状堤防、公園、  
防潮林等

防潮堤

▼TP7.2m

▼T.P.:0.00m

作田西団地

作田東団地

### 2. 沿岸中部復興イメージ

⑤「10m以上」の高台に住宅を再建

③常磐線跡地を盛土した県道バイパスは「二線堤」の役目も

漁業、観光、レクリエーション  
関連施設等用地

安全な場所で  
JR常磐線再建

二線堤の整備

防潮堤

▼TP7.2m

▼T.P.:0.00m

新地駅周辺:土地区画整理事業による新しい街

雁小屋、岡団地ほか2団地

④常磐線は、まちづくりと一体で内陸  
に移設

漁港背後の高台:漁師  
が多い大戸浜団地

- ①防潮堤は、以前のTP6.2mから7.2mに。
- ②土地代金は住まい再建に活用し、買い取った土地は防災緑地等に利用。
- ③常磐線跡地を盛り土して第二の堤防(二線堤)に。
- ④鉄道は安全な内陸に移設し、かつ鉄道をまちづくりに生かす。
- ⑤住まい再建は、今回の津波到達高以上の高台と、新地駅周辺は安全な高さに盛り土した新市街地で。

# － 新地町の復旧・復興状況 －

## 震災から7年9ヶ月経過の「平成30年12月」の復旧・復興事業の進捗状況

1. 防災集団移転	高台等に早くから整備された7箇所の新団地(全157区画)は、入居が進み残り区画は作田西団地「2区画」のみとなりました。
2. 災害公営住宅	愛宕東、駒ヶ嶺原、大戸浜、岡、雁小屋、作田東、作田西、中島の8団地は、事前に広さ等希望を聞いて129戸整備して入居中です。仮設住宅は今年5月末で全入居者が退去し、最初の団地の入居から7年1ヶ月あまりで全て廃止され解体が始まりました。
3. 被災高齢者共同住宅	親日国の台湾からは被災地に多くの支援をいただいています。新地町にも台湾赤十字社から「3億円」をいただき、老夫婦のみや一人暮らし高齢者世帯のため、小川の地場産市場「あぐりや」向かいに「22世帯」の共同住宅を整備しました。
4. 被災市街地復興土地区画整理	被災した新地駅周辺「23.7ha」を盛土して新市街地が完成し、元の地区住人の再建住宅や分譲地購入者の住宅建築が進み、町の保留地は完売しました。防災センター(兼)消防署、石油資源開発(株)社員寮・食堂、診療所、駅前駐車場、LNG活用の地域エネルギーセンターが完成。駅東では多目的運動場を整備中で、駅西では町交流センター、ホテル・温浴施設、複合貸店舗棟を来年の完成に向けて建築中です。
5. 防災緑地	釣師防災緑地(約18ha):盛土が終わり高木等植栽工事の終盤に入り、管理棟、遊具、トイレ、オートキャンプ場等の施設を整備中。(町事業) 埴浜防災緑地(約25.3ha):盛土と植栽が終わり、園路整備を残すのみとなりました。(県事業)
6. 道路	(復興道路) 町道:避難道路は整備完了路線から供用中で小沢北線も着手。新団地と拠点施設を結ぶ新たな連絡路「雁小屋線」、「中島作田線」が整備されました。 県道:金山新地停車場線は復旧狩猟運搬路を兼ねて早々と復旧改良が完了。相馬互理線バイパス、新地停車場釣師線、赤柴中島線は、完了区間から順次供用され利便性が高まりました。赤柴中島線は、新地市街地を避けて杉目方面に抜けるバイパス化に向け、調査が本格化しています。 (災害復旧) 町道:17路線全ての復旧が完了しました。 県道:金山新地停車場線(作田地内)が完了し、通称浜街道の「県道38号線」は、宮城県境から埴浜経由で作田までの一部区間が開通しました。
7. 河川	(改修事業) 砂子田川:新地駅周辺区画整理事業や防災緑地と一体で進められ、河川拡幅・橋の梁掛け替えが進み、一部下流の残区間を施工中です。(県事業) 地蔵川:防潮堤が1m高くなった関連で、河川付近堤防高上げ、川のルート変更、新しい橋の架け替え工事が進む。(県事業) (災害復旧) 三滝川、埴川、濁川:復旧工事が完了しました。(県事業)
8. 海岸	防潮堤:以前より1m高い「TP7.2m」へ嵩上げする工事が全区間終わりました。(県事業)
9. 農業	農地復旧:農地のガレキ撤去は大型機械によるフルイ分けと、人力でガレキを拾う作業を併用し完了しました。 排水機場・水路:6箇所の排水機場が復旧し稼働。壊れた各所の用排水路は、牛川排水路を除き完了しました。
10. 漁業	釣師浜漁港は、岸壁嵩上げや漁具倉庫再建に続き荷さばき所も先の3月に完成しました。地元でとれた魚を加工する民間水産加工施設も完成しましたが、漁獲量が少なく試験稼働。原発事故に伴う漁獲制限は、12/6現在「206魚種」の安全が確認されています。
11. JR常磐線	2016年12月、「浜吉田～相馬間」が5年9ヶ月ぶりに再開通し、残る双葉郡の不通区間の復旧中で、早期全線開通が望まれています。

# 新地町の復旧・復興状況

住まいの再建(1) 防災集団移転促進事業(7団地)、小規模住宅地区改良事業(小川原添地区)が早々と完了



作田東団地(防集16区画,町営住宅6戸)



作田西団地(防集28区画,町営住宅9戸)



岡団地(防集18区画,町営住宅14戸)



雁小屋団地(防集58区画,町営住宅27戸)



大戸浜団地(防集23区画,町営住宅11戸)



富倉団地 (防集8区画)



雁小屋西団地 (防集6区画)



小規模住宅地区改良事業(小川原添地区)

小川原添地区は災害危険区域に指定  
せず、全壊した住宅を撤去して緑地に整備

防災集団移転団地は、町の中心から概ね「1.5km」の範囲に、7団地157区画を整備し、早い時期から再建が進み、空き区画は2区画となりました。被災者は元の宅地が広い方が多く、新たな団地整備ではそれらの要望に添い国と協議を行い、ワークショップを重ね団地プランを修正し、完成した団地は満足度の高いものとなりました。

# 新地町の復旧・復興状況

住まいの再建(2) 災害公営住宅(8団地-129戸)、被災高齢者共同住宅(台湾からの支援で22世帯整備)



鉄筋コンクリート造、UR都市再生機構に整備を委託

愛宕東住宅(30戸)



各戸の間取りが異なります

作田東住宅(6戸)



各戸の間取りが異なります

作田西住宅(9戸)



雁小屋住宅(27戸)



各戸の間取りが異なります

駒ヶ嶺原住宅(6戸)



岡住宅(14戸)



各戸の間取りが異なります

大戸浜住宅(11戸)



各戸の間取りが異なります

中島住宅(26戸)

地場産市場「あぐりや」向いの被災高齢者共同住宅は、台湾赤十字の支援で整備



災害町営住宅は、防集団地5地区他3地区に129戸整備されました。また、被災した高齢者のため、台湾赤十字社の支援により22世帯分の共同住宅を小川地区に整備しました。

# 新地町の復旧・復興状況

## JR常磐線復旧、新地駅周辺土地区画整理事業、防潮堤整備事業



JR常磐線は2016年12月に再開通



駅西区画整理地内には住宅が建ち並ぶ



左：温浴施設とホテル、町交流センター、右：複合貸店舗棟



駅東に整備中の多目的運動場と管理棟



駅東に完成した「新地エネルギーセンター」

新地駅周辺西側では、町内被災者の住宅再建がほぼ終わり、町外からの転入者の住宅建築が盛んです。また、多目的ホール、ホテル・浴施設、複合貸店舗棟の建築も進んでいます。駅東側では、天然ガスを駅周辺施設で活用する「地域エネルギーセンター」が完成し、フットサル等を行う多目的運動場も建築中です。今後、健康果実の「青パパイヤ」等を栽培する植物工場も着工します。



防潮堤：昨年度ですべて完了しました



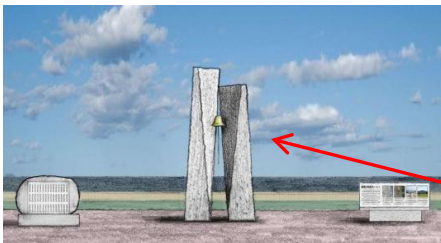
防潮堤：漁港南ドック端部

防潮堤の復旧と新設は、宮城県境近くから釣師浜漁港南端まで、以前より「1m」高いTP7.2mの高さで整備されました。



# 新地町の復旧・復興状況

## 防災緑地、道路整備事業



緑地の最高地点「想いの丘」に建てられるモニュメントのイメージ

釣師緑地完成イメージ



遊具には、大津波を乗り越え無事帰港した漁船の物語、「しんち丸」の大冒険を整備中(これから塗装されます)

沿岸部集落跡の釣師・埴浜地区には津波の力を減衰させ漂流物を捕捉する防災緑地を整備中です。個人や企業の協力により「どんぐり、黒松」等を植えて育成中。道路は震災の教訓から、新設する避難道路は「踏み切り」をなくしました。県道も復旧改良が進み順次開通しています。また、大きな防集団地ができて交通量が増加し、それに対応する新設道路も複数路線整備されました。震災直後、沿岸部の大戸浜地区は周囲の浸水で孤立し、たった一本の高台の細い砂利道を通り、命からがら避難した道は「いのちの道」と呼ばれ、交差出来るように待避所をつくりました。



パークセンター(管理棟)

空中歩道

釣師緑地：施設整備が進みパークセンターは仕上げ工事に



町道・大戸浜富倉線は踏切を無くしました



町道雁小屋線：団地から総合公園西へ抜けます



旧常磐線踏切上空から沿岸部を望む

県道：12/1供用された新地停車場釣師線



大戸浜

今泉

## 大戸浜「いのちの道」



当日、津波で周囲が浸水し、この高台の砂利道だけが通れた



待避所を10箇所つくり交差が楽に

# 新地町の復旧・復興状況

## 河川、農業(農地・用排水路)、漁業、林業の復旧



河川: 役場裏東方の砂子田川



河川: 濁川下流釣師橋より



農地のガレキ撤去も完了(埴浜付近)



復旧された農地は順次作付け



排水路が復旧した駒ヶ嶺駅東「江堀川」



白魚漁で賑わう釣師浜漁港(2018年2月)



大戸浜の水産加工施設



林業: ふくしま森林再生事業  
森林の放射線量低減と里山の再生を図る

河川は拡幅・護岸・橋梁工事がほぼ終了。農地復旧は大量で多量のガレキ撤去を機械と人力で実施し、最後の牛川地区も間もなく完了します。漁業は釣師浜漁港の岸壁嵩上げ・漁具倉庫再建が早々と進み試験操業を実施中で、荷さばき所も完成しました。漁港南部には地元産の魚を加工する「水産加工施設」が出来ましたが、水揚げされる魚が足りずフル操業していません。林業は森林の放射線量低減と再生を図る、福島県独自の事業で間伐等を実施中です。

# 新地町の復旧・復興状況

大規模プロジェクト(町の人口増)、定住促進、町外からの移転再建者、仮設住宅の廃止



1号タンクは運転中で、2号タンク、ガス発電所も近く完成します

相馬港新地エリアで整備中のLNG基地



常磐道,新地インターに建設中の高速バスストップ



福田地区に整備した若者向け定住促進住宅。  
他に新地駅前にも整備しました。

福田定住促進住宅 --- 12戸



地区世帯が大きく増加した岡地区も、移転者の再建ピークが過ぎました

町外からの移住者が多い「岡地区」



震災後町内に建築されたアパートは40棟以上200世帯を超え、主にLNG関連事業社員が町外から入居し、少子化の中でも人口が増えています

震災後、多くの町外被災者が新地町に住宅を再建し、その数は150世帯を超えています。新地の岡地区、駒ヶ嶺の原地区は特に移転者の多い地区です。また、新地駅周辺土地区画整理事業でも、町や民間分譲地を購入した町外者が住宅を建築し、人口増につながっています。一方、町中心部から遠い福田地区は人口が増えにくく、人口増施策として若者定住促進住宅を12戸整備しました。(平成29年度は新地駅前にも8戸整備)



町最初の仮設住宅が建った陸上競技場

仮設住宅撤去後は元の陸上競技場に復旧



多くの町外者が入居していた「がんごや団地」

最後の役目を終えて5月末に廃止

仮設住宅は当初、町民の被災者向けに計画されましたが、原発事故による町外被災者からの入居希望が殺到し、追加で「がんごや仮設126戸」を建設し計「573戸」を整備しました。その後、町民の住宅再建が順調に進み、順次廃止されました。最後まで残った「がんごや仮設住宅」も、2018年5月末で退去し全団地が廃止されました。

# 新地駅周辺市街地復興整備事業（福島県新地町）

## 土地区画整理事業

- ◆施行面積:23.7ha
- ◆施行期間:2013~2018年度
- ◆施行者:新地町
- ◆全体事業費:52.8億円

### <特徴>

東日本大震災により古くから形成されていた住宅地が壊滅的な被害を被ったエリアを中心に、地震・津波の教訓を踏まえた公共施設の整備や地盤のかさ上げを行うとともに、住宅地と商業・産業地等の再生を実施し、安心・安全な市街地形成と産業復興を推進する。

## 新地エネルギーセンター



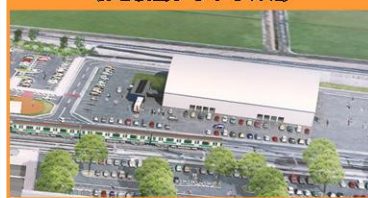
平成30年度 操業開始（予定）

## スマートアグリ生産プラント + 6次産業化施設



平成31年度 操業開始（予定）

## 新地駅前フットサル場



平成30年度 完成（予定）

## 新地クリニック



平成29年8月 診療開始

## ホテル・温浴施設



平成31年度 オープン（予定）

## 津波事業拡大区域（敷地面積 約2.4ha）



平成31年度 基盤整備（予定）

## 新地町消防・防災センター



平成29年9月 供用開始

### <整備概要>

敷地面積:5,890㎡/鉄骨造2階建・延床面積1,171㎡/  
植栽整備:1,293㎡/舗装面積:3,401㎡(駐車場26台)

## JR常磐線 新地駅(西口)



西口駅前広場  
平成28年12月 供用開始

## 若者定住促進住宅（2棟8世帯）



平成30年3月 供用開始

## JR常磐線 新地駅(東口)



東口駅前広場  
平成29年8月 供用開始

## インキュベーション・スクエア (新しいビジネスの支援施設)



新地町複合商業施設



平成30年度 供用開始（予定）

## 新地町文化交流センター (ホール・スタジオ・会議室・ラウンジ等)



平成31年度 供用開始（予定）

## 新地町役場

## 中島災害町営住宅（戸建26戸）



平成28年12月 入居開始

### <整備概要>

敷地面積:6,005㎡  
構造等:木造または軽量鉄骨造 平屋及び2階建(2区画)

平成29年8月 オープン



平成28年7月 入居開始

### <整備概要>

敷地面積:4,000㎡/延床面積 2,439㎡  
構造等:壁式プレキャスト4階建

## 津波復興拠点整備事業

- 施行面積20.8ha(交付金適要 14.4ha)
- 施行期間:2013~2019年度
- 施行者:新地町
- 全体事業費:72.3億円

### <特徴>

津波対策を通じた安心安全な中心拠点となるよう公共・公益施設、商工業、住宅等の機能を集約し、平時の安全確保だけでなく、災害時には防災拠点性を有するまちづくりを推進する。

## 新地駅周辺 施設配置計画





## 新地駅周辺において「地域エネルギーセンター事業」と「エネルギーマネジメント事業」を構築

### ■地域エネルギーセンター事業

- 相馬LNG基地からの天然ガスを活用し、ガスコージェネレーションシステムから新地駅周辺施設(ホテル温浴施設、交流センター、スマートアグリ等)へ熱と電気とCO2を供給
- 天然ガス専用導管・減圧装置を含むバルブステーションの構築、熱導管・電力自営線・CO2供給管の構築

### ■エネルギーマネジメント事業

- 公共施設等に災害時にも活用できる太陽光発電設備と蓄電池などを導入、駅周辺にソーラー街路灯を整備
- エネルギーマネジメントシステムを構築、地域内のエネルギー需給バランスの最適化

### 設備導入計画

対象施設	設備	設備容量等
地域エネルギーセンター	コージェネレーション	175kW
	太陽光発電	50kW
	蓄電池	50kWh
交流センター インキュベーション スクエア	太陽光発電	30kW
	BEMS	2基
スポーツ施設	太陽光発電	5kW
戸建住宅	HEMS	125基
防災センター	太陽光発電	20kW
	蓄電池	15kWh
	BEMS	1基
周辺地域	ソーラー街路灯(蓄電池)	6基



**熱電供給エリア**  
 ・地域エネルギーセンターからの熱電供給範囲(鉄道施設除く)

# 心の復興

若者たちが震災前の夏祭りを、「やるしかねえべ」と継続して8回開催、被災者も仲間を募りいろいろな活動を行い、「心の復興」につなげています。



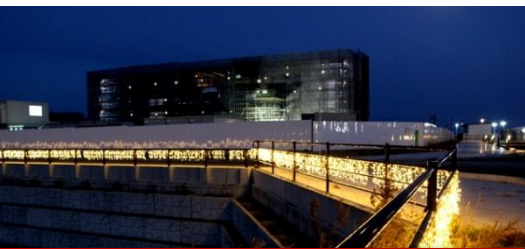
総合公園で最後の開催「2018やるしかねえべ祭」



桜の植樹活動(あいらぶしんち)



ビーチクリーン活動(しんちビーチ隊 2018/11)



NPO「みらいと」は今年から任意団体で活動。  
新地駅前イルミネーション点灯



屋外自然体験・流しそーめん

## 〈しんちの子育て考え隊のグループ〉



木でフォークづくりを体験



あそびうたコンサート

## 町事業：釣師浜街並みをジオラマで忠実に再現、コミュニティガーデン事業で交流



釣師の街並みを3Dプリンターで再現



雁小屋地区：スパイスクッキング



岡地区：アートクロック製作

他にも・・・いろいろなグループが活動しています

# 「復興フラッグ」 初代の旗は自衛隊により沿岸部に立てられました

デザインが変わった「四代目」フラッグは、役場庁舎前駐車場に仮掲揚中で、釣師防災緑地完成後に、緑地内のラウンドアバウト交差点付近に掲げられます。



こんな姿のライダーも来ました



← 自衛隊が立てたと言われている初代日の丸  
2011年4月7日・大戸浜地内

# 3. 11 あの時を振り返って



## 震源、電車乗客の避難、10mを超える大津波

2枚の写真(津波襲来と電車乗客避難)は、沿岸部現場から戻る途中の建設会社社員が撮影したものです。2枚の撮影時間差は「5分」、若い二人の警察官の誘導は、今も語り継がれています。

下水処理場の屋根高は約15m



常磐線



役場に避難する電車の乗客





## 役場庁舎裏は20センチ以上浸水

新地駅前や集落から流されてきた多くの車

砂子田川

住宅は一階の天井付近まで浸水した



## 自衛隊先発隊が翌早朝に到着、その後次々と遠方の部隊が到着(写真は3/15日)

車庫棟は自衛隊炊事班が炊き出しに使用

山には雪が残る寒い日々が続いた



平成13年度建築の庁舎は、地震で内装にヒビが入った程度と被害はほとんどなく、停電とトイレ以外は以前と変わらない環境で初期対応ができました。自衛隊・警察も、寒い中テント泊ではなく、体育館で寝泊まりでき公共施設の風呂にも入ることが出来たなど、堅牢な公共施設は災害時に大いに役立ちました。

## 庁舎4階展望ロビーから中島集落・新地駅方面

2011/03/16撮影



新地駅で折れ曲がった電車



折れ曲がった電車は現在、白河市のJR研修センターに展示されています

# 沿岸部の被災状況

死者 119人(関連死含む) 津波による全壊「467」世帯



← 塙浜地区

全壊:61世帯



← 釣師地区

全壊:159世帯



← 大戸浜地区

全壊:101世帯

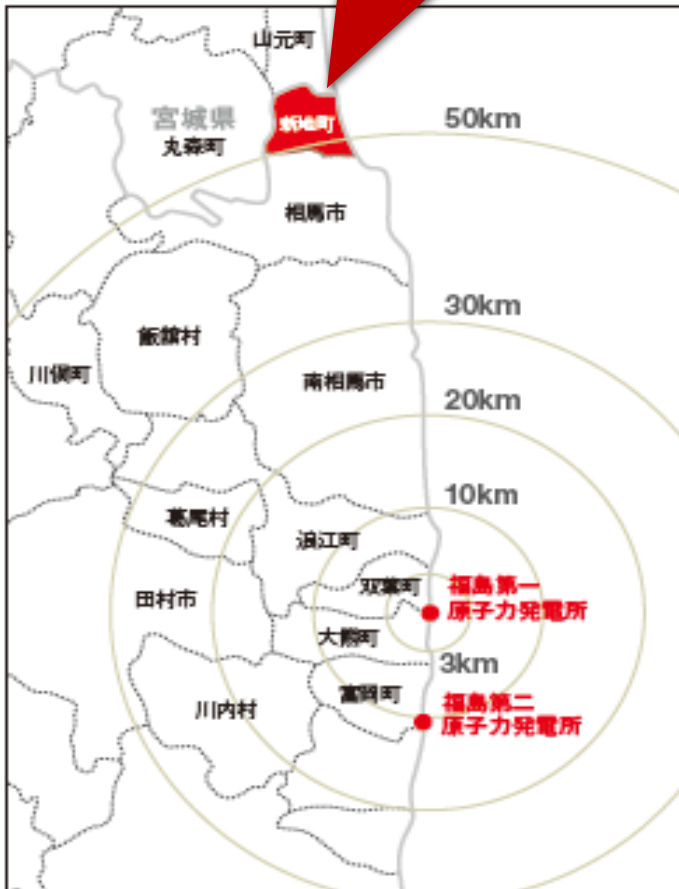


← 今泉地区

全壊:17世帯

# 福島第一原発事故と新地町

2018年9月22日の空間線量  
0.03~0.10 $\mu$  Sv/h  
(最低値と最高値: 町測定)



- 3/12 1号機 爆発
- 3/14 3号機 爆発
- 3/15 2,4号機 爆発



屋内待機や搜索中止の指示。停電のため正確な情報が入らず、避難したくてもどうしたらいいかわからない状況に、町民の不安は高まりました。

平成30年12月6日の空間線量(県測定)

鹿狼山登山口 (51km)	新地町役場 (52km)
0.06 $\mu$ Sv/h	0.08 $\mu$ Sv/h



▲第一原発 津波襲来

爆発事故当時、6号国道より東側にある庁舎は停電で、テレビが映らず、電話やメールも繋がりにくく、情報は搜索を中断し屋内退避した自衛隊・警察から断片的に入るのみで、職員の多くは重大事故の詳細を知りませんでした。

▼3号機爆発後



## 仮設住宅（建設から廃止まで） 写真は、2011/04/25入居開始の総合公園グランド仮設

- ・仮設に適した公共用地の他、町民の土地協力により津波被災地で最も早い入居が実現。
- ・町内8箇所に「573戸」建設し、最後の入居者が今年5月末に退去し全団地廃止。
- ・町外被災者も多く受け入れ、その一部は町内に住宅を再建し、現住人口増につながる。



# 震災直後とその後



## 2011年3月16日と同位置の復旧後



沿岸部集落から流された住宅や車両等ガレキで砂子田川や水田が埋めつくされた役場東方



2018年6月19日

復旧中の県道は一部が供用を開始し、砂子田川は改修され大きく拡幅されました



小川の「入り江」地形の端部は、ガレキが大量に集まりその中で自衛隊の搜索活動が行われていました



2017年9月

元の水田に復旧されました



役場4階展望テラスから釣師方面を望む。集落が消滅し5日たっても水が引かずに残っていました



2018年8月17日

鉄道が内陸に移設し、元鉄道敷は盛土され県道バイパスに、駅周辺宅地では住宅建築が進みます

# 震災を教訓に・・・防集団地公園の「かまどベンチ」





# 町の発展・賑わいの創出

一社の誘致が決定しました



新地インター北に南工業団地(二期分)整備完了



鹿狼山マルシェ。毎月下旬鹿狼山登山口で開催し地場産品を販売。



被災した相馬港5号埠頭の海釣り公園は、来春再オープンに向けて復旧がほぼ終わりました



味菜ひろば「よりみち」

町には果樹も含め数軒の地場産の店があり人気スポットです。中でも先駆けの「あぐりや」は、昨年の来客数が延べ11万人を超え、安く新鮮な野菜をはじめ、菊など新地の花も人気の一因で、町外からも多くの方が来ます。また、6号国道沿いの「味菜ひろば・よりみち」は、ここだけ限定の「ニラかりんとう」、「味菜たれ」、「特製ギョーザ」が人気です。



新地地場産市場「あぐりや」

## 今後の残事業

- ・新地駅周辺整備の建築工事(町交流センター、複合貸店舗棟)←来年完成
- ・防災緑地(園路、オートキャンプ場、建築、植栽)←来年度仮オープン予定
- ・県道、相馬亘理線旧道(大戸～釣師間)、新ルートバイパス
- ・防災集団移転団地集会所建築(作田西団地1箇所)
- ・河川改修(地蔵川、砂子田川)
- ・農業用排水路(牛川排水路)
- ・被災者支援事業



# 後世に伝えたい写真

## (1)津波を甘く見ないで

写真に写る方々も、その後の私たちも、「津波はこの程度」と思い込んでいたと思われる一枚です。津波から自分で身を守る、そのためには逃げる、将来に残す貴重な写真です。

磯山の三宅 實さん撮影

1960年チリ地震津波が埴浜小塚橋に襲来。しかし、急いで避難する様子には見られません・・・

## (2)犠牲者が出た踏切の遮断機、その教訓を生かします



新地駅の数百m南の踏切は、電車が入ると常に遮断機が下りていた。

震災後、幹線避難道路は「踏切」をなくし立体交差に →

### (3)命をかけて挑んだ漁船の「沖出し」 写真は相馬港から沖に出る巡視船「まつしま」

**巡視船「まつしま」に迫る最初の大波。乗員は船に「頼むぞ」の声掛け**



巡視船「まつしま」は、当時たまたま相馬港で訓練中でした。船を守るため漁船同様沖に出ました。まつしまは680トン、その後、老朽化により引退しました。

画像は「海上保安庁」より

**大波を越える瞬間・・・**



新地の漁師も、大切な船を守るため沖出しをしました。沖出しに向かった36隻のうち、エンジントラブルの1隻が波にのまれ一人が犠牲になったほか、もう1隻は波にのまれて沈没し、漁師は海に投げ出されましたが、運良く仲間の船に助けられました。他にも、修理中で自力航行出来ない船一隻も、船を守るため仲間の船に曳かれて沖出ししました。翌日になって、34隻の船が釣師浜漁港に戻りました。漁船は巡視船と違い小型のため、大波越えはとっさの判断で、斜めに波を乗り越えたそうです。

**終わり**